



## 私の思い出写真館

# 建築設計に携わって



横谷 英之

日建設計  
取締役常務執行役員

仙台第一高等学校から東京芸術大学建築科へ入ったのは私が初めてでした。芸大といえば実技試験、建築は建築写生と立体構成です。絵画やデザインには先輩がいましたが建築は誰もいないので試験の内容が分からない。それでも受けたのだから無謀な受験生でした。試験場には二次に残った50人が一堂に会し、立体構成の課題では「和紙と糊で高さ60cmの立体を作れ」……「?」。しばし考えた結果、「彫刻を作れ」というお題と解釈し、一心不乱に始めました。時間を30分ほど残して作品が完成、「まずまずの出来」と安堵しながら周りを見渡して……「おやっ!」。求められているのは単なる彫刻ではなく、材料の性質を生かした構造物であるらしい。紙は折れば強くなる……「なるほど!」。少し前の席にいた女子の大きな紙風船には感心しました。そのままでは自立しない紙も空気をはらめば立派な立体になる。かくして悟りは開け、桜は散りました。浪人して翌年合格、音楽学部200名、美術学部200名。建築科は美術学部の中で最少の15名でした。動物園と博物館に挟まれ、通学路の一方は上野・アメ横、他方は谷根千(谷中・根津・千駄木)、個性が服を着ているような教師と学生、楽しい大学生活でした。



芸大少林寺拳法部

大学院を修了して日建設計に入社、木造の茶室から博物館、空港、超高層ビル、さまざまなタイプの建築設計に携わってきました。転機となったのは中国銀行上海ビル、映画「Mi:III (ミッション:インポッシブル3)」でト



工事中の中国銀行上海ビル  
右端は東方明珠(上海TV塔)

中国銀行上海ビル  
200mの屋上に竹の足場



ム・クルーズが飛び降りたビルです。設計コンペに当選し、まだ開発が始まったばかりの上海浦東の地に立ったのは94年、開発の熱気、土埃と喧噪が渦巻いていました。以来中国プロジェクトの責任者となって20年、上海には当社が設計した8棟の超高層ビルが建ち、全社業務の15%が北京や広州など中国全土に展開するまでになりました。中国は今が正念場、本当の民主国家に生まれ変わるまで、しっかりと見届けたいと思っています。

出身地、仙台のプロジェクトにも積極的にかかわってきました。97年に竣工した仙台空港ターミナルビルは、国際線の拡大を想定し、大型空港並みの3階構成として設計しました。そして東日本大震災、ビルは津波の中に孤立し、周囲のあらゆるものが流されていきました。東北道の通行許可を得て現場を訪れたのは一週間後、津波の直撃を受けた1階・2階は手が付けられないほどの惨状でしたが、津波の高さを超えていた3階以上はわずかな損傷を受けただけ、ガラス一枚割れていません。ここで千数百名の乗客・ビル関係者・近隣住民が難を逃れることができました。構造的な被害は最小だったので、1カ月後には仮設で使用開始、わずか半年後には全面再開することができました。「3・11」以来、建築の役割に対する認識は劇的に変わりました。公共建築に限らず、一定の規模を持つ建築は民間といえども地域の安心・安全に責任を持つ公的な社会資本として整備されなければならない。クライアントと共に、その実現のために努力を続けていきたいと考えています。



復旧した仙台空港にて